

学習指導要領に示された本単元に関わる目標及び内容

1 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

2 内容

C 主として集団や社会との関わりに関すること

12 規則の尊重

〔第1学年及び第2学年〕

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕

約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。

〔第5学年及び第6学年〕

法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

(中学校)

[遵法精神, 公德心]

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

教材について

教材名 黄色いベンチ (学研『みんなの道徳 2年』)

あらすじ

雨上がりの公園で紙飛行機を飛ばすことにした、たかしとてつおは、高いところから飛ばしたいという思いから黄色いベンチに目をつける。何度も何度もベンチの上に上がって、紙飛行機を飛ばし、夢中になっていた二人は、ベンチを泥だらけにしてしまう。その後、ブランコに乗って遊んでいる際に、後からベンチに座った女の子の服が泥で汚れてしまった様子を見た二人は、はっとして、反省の念にかられる。

第2学年東組 道徳科学習指導案

学習指導者 好井 佑馬

1 主題名 みんなのことを考えて[規則の尊重]

2 主題について

子供が成長することは、所属する集団や社会を構成する一員として集団や社会の様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためにも、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、自他の権利を尊重し、義務を果たすという精神を身に付けるように指導する必要がある。

2年生の段階においては、まだ自己中心性が強く、ともすると周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。そのため、公共物や公共の場所についての身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また、みんなで使う物や場所を進んで大切に、工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるようにすることが大切である。

3 教材分析と主発問

本教材においての中心場面は、たかしとてつおが汚したベンチに女の子が座り、服を汚してしまった様子を見た二人が、はっとして顔を見合わせる場面である。この瞬間に、二人の心情は、「紙飛行機を高いところから遠くに飛ばせて楽しかった」という思いから大きく変化し、自分たちの行為について振り返り始めているのである。そこで、『二人がはっとして、顔を見合わせたとき、どんなことを考えていたでしょう』と発問し、二人が自分の行為をどのように反省しているかを捉えられるようにすることで、自分勝手な行動によって、公共物の使い方の約束やきまりを守らないと、人の迷惑になり、自分や周りの人が気持ちよく過ごせないことがあると気付かせたい。

また、本主題のねらいは、「怒られるから」「使い方が決まっているから」といった理由で、みんなが使う物や場所を大切にしようという考えにとどまらず、きまりでなかったとしても、みんなが使う物や場所を他の使う人の気持ちを考えて、みんなが気持ちよく過ごせるように大切にしようという考えを理解できるようにすることである。そこで、子供にとって、遊具として当たり前前に遊んでいる、ブランコに立って乗っている行動に注目させる。そして、主発問として、『みんなだったら、泥のついた靴でブランコに立って乗りますか』と問うことで、使い方を間違っているわけではないけれど、次に使う人の気持ちを考えて使うことが大切だという考えに気付かせたい。

4 目指す子供の姿と子供の実態について

(1) 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

約束やきまりはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあるという理解を基に、公共物や公共の場所を使用する際に大切にしたい思いを互いに認め合いながら、約束やきまりについて、考えを深めていく。そして、みんなが使う物や場所についての約束やきまりをみんなのことを考えて、守ったり、工夫して使ったりする意欲を高めている。

教材文の主人公たちがベンチを汚してはっとしたときの心情について話し合い、自分勝手な行動によって、公共物の使い方の約束やきまりを守らないと、人の迷惑になることに気付かせ、ベンチの使い方の約束やきまりは、みんなが気持ちよく安心して過ごすためにあるということを理解する。

その理解を基に、ブランコの使い方について、「ブランコは立って遊ぶと、とっても楽しいよね」「楽

しいけど、立って遊んで泥だらけにすると、次に使う人が困るよね」「そうだね。自分が楽しいだけではだめだね」「立って遊んでも、次に使う人の気持ちを考えて、きれいに使うようにしたいな」などと利用する際に大切にしたい思いを互いに認め合いながら、これからどのように公共物や公共の場所を使っていきたくか考えを深めていく。そうして、自分の生活を振り返って、「学級の本をきちんと片付けて、次に読む人が取りやすいように本の向きも揃えたい」、「駅では、周りの人の迷惑にならないようにホームを歩いて、静かに過ごそう」などとみんなが使う物や場所についての約束やきまりをみんなのことを考えて守ったり、工夫して使ったりしようとする姿を目指したい。

(2) 子供の実態

道徳科の授業におけるメタ認知に関わる質問紙調査と、教師の日常の観察から、道徳の授業で自分の生活について振り返ることが難しい子供が36名中20名いる。この子供たちは、具体的な場面のイメージが難しいため、学んだことを他の場面に置き換えて捉えにくいだろう。また、自分の考えを話すことが得意ではなく、友達と話し合うことに苦手意識をもっている子供が5名いる。

5 主張点

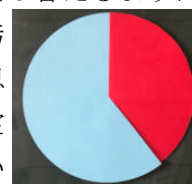
(1) 自己を見つめられるようにする働きかけ

事前に、紙飛行機を飛ばす活動を行う。そうすることで、「高いところから飛ばすと楽しい」と自分の楽しい思いを優先して、ベンチに上がってしまった教材文の主人公に共感できるようにし、自分勝手な思いによって、他人に迷惑をかけてしまったことに気付いた主人公の気持ちの変化を自分事として考えられるようにする。

導入においては、事前アンケートから、子供たちの考えるみんなが使う物や場所を把握し、それらの中から、使い方の約束やきまりを守っている例とそうでない例の写真を提示する。そうすることで、自分の使い方を想起して、自分の生活と関連付けながら、本時のめあてへと子供の意識をつなぐことができるだろう。【パッと見て回想】

(2) 物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるようにする働きかけ

展開において、泥だらけの靴でブランコに立って遊んでいることについて、自分だったら「立つか」「立たないか」という立場を心情円盤を用いて提示させ、ペアで話し合う場を設定する。心情円盤を用いることで、二つの立場の間にある自分の揺れ動く心に気付くとともに、友達との違いを視覚的に捉えられるようにし、友達がそう考えた理由を知りたいという気持ちを高めて、主体的に話し合えるようにする。そして、表出された「ブランコで楽しく遊びたい」という誰もがもつ思いや「汚れた靴で立って遊ぶと次に使う人が困るからよくない」というみんなのことを考えた思いなどを交流し、それぞれの考えを認め合えるようにする。このような対話の場を設定することで、どちらも自分の心にあることを実感できるようにし、自己の生き方についての考えを深められるようにする。【あなたはどうか？】



【心情円盤】

(3) 自己の生き方を見つめ直す自己評価・相互評価の工夫

終末では、身の回りにある公共物や公共の場所の写真を提示し、どのように使うのがよいかを考えられるようにする。そうすることで、本時、学んだことを基に、具体的な場面を想起して考えることができるだろう。また、「今までの自分（できていたこと）」と「これからの自分（頑張りたいこと）」という二つの観点を明示して、自分を見つめるとともに、自分が振り返ったことを友達と肯定的に受け止め合う場を設定する。そうすることで、友達のよいと思う考えを自分に取り入れたり、自分のよさに気付いたりできるようにする。その際、ノートを交換し、「いいな」と思ったところに線を引くように促すことで、自分の考えを話すことが苦手な子供も友達に考えを伝えやすくする。【いいねタイム】

6 本時について

ね 身近な公共物や公共の場所の使い方について大切にしたい思いを話し合うことを通して、使
ら 方の約束やきまりはみんなが気持ちよく過ごすためにあることに気づき、自分の生活を振り返っ
い て、みんなが使う物や場所を大切に使う態度を養う。

	学習活動	主な子供の意識	
導入	1 身近な公共物を確認し、めあてを設定する。 【パッと見て回想】	学級の本がきれいに並んでいると気持ちいいな。	僕はいつもこうやって使えていると思うよ。
		きれいに片付けられていないのは嫌だね。どうしてこうなるのかな。	私はきちんと使えていないときもあると思うな。
みんなの物を使うには、どんな心が大切なのだろう			
展開	2 教材文を読み、女の子の姿を見て、はっとした二人の心情を考える。	はっとして顔を見合わせた二人は、どんなことを考えていたのかな。	
		ベンチの上にも上がるんじゃないかな。女の子に謝らなきゃ。	どうしよう。怒られるかもしれない。黙っていたら分からないかな。
		ベンチは立って遊ぶものじゃないよね。	
		ベンチを正しく使えたら、みんなが笑顔になれたよね。	
展開	3 ブランコに立って遊んでいたことについて考える。 【あなたはどうぞ？】	汚れた靴でブランコに立って遊んでいることはどうかな。	
		私は、絶対に立たないよ。だって、ブランコもベンチと一緒に汚れてしまうと次に使う人が困るよ。	僕は、立って遊んでもいいという気持ちがあるよ。だって、立って遊ぶと楽しいよね。
		確かに自分は楽しいだろうけど、後から使う人は嫌だよ。	ブランコは立って遊ぶものだし、ベンチとは違うよ。
		きまりじゃなかったらいいのかな。ベンチと一緒に次に使う人のことを考えた方がいいと思うよ。	ブランコは立って遊んでもいいけど、次の人のために、汚さないように使うことも大切なのかな。
		みんなで使う物は、みんなのことを考えて使う心を大切にすれば、自分もみんなも笑顔で遊べるね。もっと楽しい公園になると思うよ。	
		公園のことだけでなく、他の物の使い方もあるよね。	
終末	4 自分の生活を振り返り、これからの生活の仕方を考える。 【いいねタイム】	学級の本はきれいに片付けよう。	駅では静かに過ごさないね。
		今まで、本は片付けていたけど、これからは、みんなのことを考えて向きもそろえたいな。	今までも、駅で周りの人のことを考えて過ごしていたけど、これからも続けていきたいな。
		駅でもみんなのことを考えて過ごすよさそうだね。自分もやってみよう。	〇〇さんが言ったように、みんなのことを考えて、みんなが笑顔になれるように過ごしたいな。

評価 公共物や公共の場所の使い方の約束やきまりがあるのはみんなが気持ちよく安全に過ごせるためであるという理解を基に、自分の生活場面を想起して、みんなのことを考えて、みんなが使う物や場所を大切に使う態度を養っている。 【方法：発言・ノート】